

福岡市総合計画審議会

第1回 都市の成長部会

会議録

日時 平成24年7月9日(月) 9時30分

場所 天神ビル 11号会議室

出席者（五十音順、敬称略）

青木 計世

小俣 郁雄

後藤 太一

富永 周行

福田まもる

星野 裕志

安浦 寛人

阿部真之助

甲斐 敏洋

高比良拓児

鍋山 徹

藤野 直人

水城 四郎

矢田 信浩

池内比呂子

小塩 正己

出口 敦

西村 栄造

古川 清文

村上 樹人

山倉千賀子

福岡市総合計画審議会

第1回 都市の成長部会

〔平成24年7月9日（月）〕

開 会

1 開会

○事務局（光山） それでは、時間となりましたので、ただいまから福岡市総合計画審議会都市の成長部会の第1回目の会合を開催させていただきます。

私は、福岡市総務企画局企画調整部長の光山でございます。よろしくお願いいたします。

委員の皆様には、月曜日の早朝から、大変お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。本日はいよいよ具体的な審議に入りますので、よろしくお願いいたします。それで、最初の部会でございますので、部会長、副部会長選任までの間、私が進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

まず、審議に先立ちまして、報道関係の皆様及び傍聴される皆様にお願いがございます。会議の円滑な進行のため、カメラ等の撮影、取材は委員の皆様の自由な発言、議論の妨げとならないよう十分ご配慮をお願いいたします。また、傍聴者の皆様には注意事項をお渡ししておりますが、傍聴席からの発言や拍手等はできません。注意事項が守れない場合は退席していただきますので、どうぞよろしくご協力をお願いいたします。

それでは、まず配付資料の確認をさせていただきます。

本日の次第の下のほうに、配付資料の一覧ということで資料1から資料4まで記載させていただきます。

最初に資料1、都市の成長部会委員名簿でございます。

それから、資料2が「今後の審議スケジュール（予定）」と書かれたペーパーでございます。上から2段目に「本日」と大きく書かれておりまして、部会①、1回目というスケジュールになっております。

それから、資料3でございます。資料3につきましては、「『第8次基本計画のふりかえり』のグラフ出典等」ということでございます。先日の総会の資料7で計画の振り返りというもののデータ等をお示ししたわけでございますが、安浦会長からデータの出典や母数を示すようにというご意見をいただきましたので、今回、関連するデータの出典及び母数等の数字を掲げさせていただきます。

それから、資料4でございます。せんだっての部会で委員から、外部の方が福岡をどう見ているかという資料があればということでございましたので、分厚いフォルダー、ドッチファイルのほうには『有識者会からのご意見』という冊子がございますが、それに加えまして、今回、資料4といたしまして、『福岡市におけるアジア政策の過去・現

在・未来 第2巻』、福岡アジア都市研究所が2010年に発行したものでございます、こちらからの抜粋といたしまして、韓国、中国の専門家から見た「福岡市アジア政策への提言」という形でご意見を伺ったものを資料としてそろえております。

それから二つ目、『福岡市と九州各自治体との交流・連携に関する調査』、これも福岡アジア都市研究所が2010年に発行した資料でございます。こちらは、九州内の124の自治体に対するアンケート調査を実施して、福岡市が九州・沖縄の中で担うべき役割や機能、それから活用したいと考えている資源について調査したものでございますので、後ほどご参照いただければと考えております。

それから、会議の資料ではございませんが、右肩に「未定稿」と書かれた、せんだつての第1回の総会の会議録を配付させていただいております。こちらにつきましては、皆様、内容をご確認いただきまして、修正点がございましたら7月17日までに事務局までご連絡いただければと思っております。その後ホームページ等で公表させていただく予定としておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、議事に入ります。

最初に委員のご紹介でございますけれども、さきの総会におきましてすべての委員の方々のご紹介をさせていただきましたので、本日は審議のお時間をできるだけとりたいということも含めまして、ご紹介については割愛させていただきたいと考えております。

2 部会長、副部会長選出

○事務局（光山） それでは、初めに、部会長と副部会長の選任をいただきたいと考えております。福岡市総合計画審議会規則第10条第2項の規定によりまして、部会長及び副部会長は委員の中から互選することになっております。もしよろしければ事務局からご提案させていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○事務局（光山） ありがとうございます。

それでは、事務局の案といたしましては、部会長は、九州大学大学院経済学研究院教授の星野委員に、副部会長は株式会社テノ、コーポレーション代表取締役社長の池内委員をお願いしてはどうかと存じますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○事務局（光山） ありがとうございます。

それでは、都市の成長部会の部会長は星野委員、副部会長は池内委員にご就任いただきたいと存じます。お二方につきましては、正面の部会長、副部会長席にお移りいただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

〔星野部会長、池内副部会長、正副部会長席へ移動〕

3 部会長、副部会長あいさつ

○事務局（光山） それでは、星野部会長、池内副部会長からごあいさつをお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○星野部会長 おはようございます。ただいま部会長のご指名をいただきました星野裕志です。池内副部会長とともに本部会の運営をさせていただくことになりましたので、どうぞよろしくお願いいたします。

今から10年後の2022年を見据えて、これから福岡市の総合計画と基本計画の審議が始まります。わずか4カ月の間にこの部会を6回持ちながらこの会議を進めていくわけですが、福岡市の将来像を構築するには決して十分な時間とは言えないと思います。また、そんな中でアジアのリーダー都市というものを目指すのであれば、今までにない豊かな発想を持った構想とその施策が必要になってくると思います。

ただ、お手元にありますけれども、このファイルいっぱい意見が市民の皆さん、市役所の職員の方、有識者の皆さんから既に集まっているわけですから、この24名のメンバーが同じような視点で意見を重ねていくのはあまり意味がないのではないかと私は考えております。

そんな中で、これからこの構想を練るに当たって三つの切り口を考えてみました。

一つ目は、現在の福岡の弱点を克服していくということです。例えば、福岡には成長が期待できる産業がなかなかないこと、あるいは経済基盤に乏しいこと、強い経済基盤がないこと、そのような弱点をどう克服していくかというのが一つ目の視点です。

二つ目は、現在のよい基盤をいかに維持して、さらにそれを増進させていくかだと思います。例えば、福岡の快適さもそうですけれども、国内外からの人の結節点という現在あるこの基盤をさらに強化して増進させていく、これが二つ目の考え方かと思います。

三つ目、これが一番難しいことだと思うんですけど、さらに一歩前に出るための努力です。競争優位性を得るための施策ですけれども、例えば、今、福岡にある大学や研究機関の存在もそうですが、それ以上に、福岡にある専門学校の集積を、あるいは新幹線効果を、これから七隈線がいずれ全通することを、さらに一歩前に出るためにどう生かしていくのか、こんなことが三つ目の切り口として考えられるかと思います。

具体的な目標に沿った施策については今日からまさに審議をさせていただきますし、その目標については次回のテーマになるかと思いますが、今三つお示した、一つ目、弱点をいかに克服していくのか、二つ目、現在の基盤をいかに維持しながらさらに増進させていくのか、三つ目、競争優位性を得るためにどういうふうに一歩前に出るのか、こんな視点をどこかに持ちながら皆さんにアイデアをご準備いただきたいと思います。

ます。

本部会は「都市の成長部会」という名称ですけれども、この24名の委員の方々は皆さんすぐれた知識と豊富なご経験、実績をお持ちの方です。ですから、委員の皆さんからの忌憚ないご意見をいただいて、事務局のほうで今回ご用意いただいた福岡市の総合計画の素案をはるかに超えるような、魅力的でわくわくする福岡が2022年にできるような、そんなアイデアを出していただければと思います。私も、そういった計画がこの部会の最終的な成果物としてできることを大変楽しみにしております。どうぞよろしく願いいたします。（拍手）

○池内副部長 皆さん、こんにちは。私は今回、副部長に選ばれました池内と申します。私の会社はテノ・コーポレーションと申しまして、女性が育児をしても、家事をしても、介護をしても働き続けられる社会をつくろうということで事業をしている会社でございます。そういった中で、今回こちらのほうに選任されたわけですが、福岡というより、今の日本の大きな問題といたしまして、人口減少社会、少子高齢化、そして経済が縮小している社会であることがありますが、そういった中、福岡市は人口も増加するということが大変恵まれているまちであるという認識を持っております。

今、部会長のほうから三つのポイントのお話でしたが、それを進める上で、私としてはこういった視点で考えていけたらと思っております。

一つ目の大きな視点は、時代を読んだものがつくれるかだと考えております。

もう一つの視点は、10年後といいますと今生まれるお子様が10歳になりますし、私は10年後まだ年金はいただいておりますが、それに近づいています、そういったことで考えると、子供、大人、高齢者、みんなが10年後に福岡市に住みたいと言ってくれるか、福岡市を誇りと思ってくれるかです。

私は部会長のポイントを進める上で、そういった二つの視点をすり合わせながら進めていけたらと思っておりますので、どうぞ皆さん、ご協力のほどよろしく願いいたします。

以上でございます。（拍手）

○事務局（光山） ありがとうございます。

それでは、ここからは星野部会長に進行をお願いしたいと思います。星野部会長、よろしく願いいたします。

4 審議（基本構想、基本計画（総論））

○星野部会長 それでは、これからは私が進行を務めさせていただきます。

まず、先ほども申し上げましたけれども、この部会が今回を含めて4カ月間で6回設定されているわけですし、総会との関係でこの部会はどう進めていくのか、それから、後半にパブリックコメントがあるわけですけれども、前半の位置づけと後半の位置づけを含めて、ちょっと全体のスケジュールについて事務局のほうからご説明をお願いいたします。

○事務局（藤本） 福岡市企画課長の藤本でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

「資料2」と書いてある資料についてご説明させていただきます。今後の審議スケジュールということで、前回お示しした資料を再度置かせていただいております。

第1回総会ということで7月3日に諮問させていただきまして、基本構想、基本計画の素案についてご説明させていただいたところでございます。

そして本日が部会の1回目ということで、基本構想と基本計画の総論をご審議いただきたいと思っております。

次回7月17日に部会の第2回目ということで、基本計画の各論と分野別目標や空間構成の目標について審議いただこうと思っております。

本日1回目と7月17日2回目の部会は、一旦最後まで自由にご意見を出していただく場面と考えております。

その後、7月31日に総合調整委員会ということで、会長、副会長、それから両方の部会長、副部会長での会でございますが、そこで両方の部会で出ましたご意見を一つに合わせ、それをもとにいたしまして、お示ししている今の素案に皆様のご意見を反映した形で修正案をつくりたいと思います。

その修正案について、8月3日の3回目の部会でご提案させていただきまして、そこで改めてご審議をいただく、4回目も同じような形でその続きをご審議いただきたいと思っております。

それを踏まえたものをパブリックコメントの案とさせていただくため、8月31日の第2回の総会でその案をまとめさせていただこうと考えております。

その後、パブリックコメントをいたしまして、市民の皆様から出たパブコメの意見を踏まえた修正案を10月と11月の5回目、6回目の部会でご審議いただき、最終的に第3回の総会で成案を決めていただこうと考えております。

以上のようなスケジュールで考えているところでございます。説明は以上でございます。

○星野部会長 ありがとうございます。

今のお話ですと、今日はお手元にあります福岡市の総合計画の前半の審議をいただいて、次回から後半を審議する。その後は、前半は前と後ろを行きつ戻りつし、そしてパブリックコメントを得て、最終的に修正を加えていく、そういうスケジュールをお示しいただいたかと思います。

この進め方で何かご質問、コメントはございますでしょうか。よろしいですか。

〔「なし」の声あり〕

○星野部会長 それでは、最初に今日の審議の内容について明らかにしておきたいと思えます。

お手元の福岡市の総合計画の素案の1ページ目をお開けいただけますか。ご説明をいただきましたように、1ページの「第1編 福岡市基本構想」から始まって、22ページの「6 基本計画推進にあたっての基本姿勢」までを今日審議することになります。

ただ、ページ数が非常に多いですし、中の性格が異なっていますので、これを四つのセクションに分けて審議したいと思います。また、必要であれば、できれば途中でブレイクをとりながら進めていきたいと思えます。

四つの分け方は、まず1ページと2ページの基本構想について審議いただくのが最初です。今度は「基本計画策定の趣旨」という3ページから始まって6ページの年表までがパート2になります。パート3が、今、世界、アジア、福岡都市圏がどうなっているかという現状と課題で、7ページから18ページの前まであります。そして18ページ目の「アジアとの充実したネットワーク」までを一つの区切り、パート3として審議いただきます。そして、最後がパート4で、19ページから22ページとなります。そういった現状の中で今後の発展のために福岡には何が求められるのかをセクションの四つ目として審議いただきたいと思います。

まずは最初のセクション、ページで言うと1ページ、2ページの見開きの福岡市の基本構想についてご審議をいただきたいと思います。

今日は20名の委員の方にご参加いただいていますけれども、2時間半という限られた時間でもありますし、ぜひ皆さんの忌憚ないご意見をいただくとともに、簡潔にお話しいただいて、最後に事務局からご連絡いただきますが、ご発言の足りない部分については後でコメントとしてお寄せいただくような方法も考えておりますので、そのように進めていきたいと思えます。よろしいでしょうか。

それでは、1ページ目、2ページ目を見開きの福岡市の基本構想について、何かご意見のある方、いかがでしょうか。

今、1、2ページの見開きと言いながらですけども、4ページ目をちょっとごらんいただけますか。私もこれを見ていて思ったんですけども、この基本構想と基本計画と実施計画の関係がどうなっているのかというのが実は出てきています。それ以前の基

本構想なので、なかなかこの位置づけがわかりづらいかと思うんですが、基本構想というのは福岡市が長期的に目指す都市像を示したものの、基本計画というのは基本的な都市像の実現に向けた2022年を目標年次とする10年間の長期計画、実施計画というのは10年間の長期計画に基づいて具体的にどういうことを施策、事業として進めていくかが中期計画として出されているものだというんですね。ですから、実施計画が中期計画、基本計画が長期計画、そして基本構想が全体の構想という位置づけになるわけですが、その中で、もとに戻りますと、この1ページ目と2ページ目の福岡市の基本構想について何かご意見のある方はぜひお願いいたします。

○委員 一番最初にしゃべるのは非常に勇気が要るんですけども。基本構想の都市像の三つ目に「海と歴史と文化の魅力が人をひきつける都市」とありますが、この「海」というのが福岡にどこまでしみわたっているのか非常に疑問を感じました。福岡というと、川もあるし、山もあるし、豊かな自然があります。だから、そちらのほうで書かれたほうがいいんじゃないかと感じました。ですから、例えばですけども、「豊かな自然と歴史と文化の魅力が人をひきつける都市」とかのほうが私の実感には近い感じがします。以上です。

○星野部会長 ありがとうございます。

はい、お願いいたします。

○委員 「海」は絶対に外しちゃだめです。日本は海洋国家なので、今おっしゃったとおり海と川ということで、「海」は残してください。この国は海を忘れたからこうなっちゃったんです。なので、海は絶対のキーワードです。

○星野部会長 なるほど。今、言われた「海」は絶対というのはわかるんですけども、ご指摘いただいた「海と歴史と文化の魅力」と並列するのは表現としてどうなのかなというのは私も実は読んでいて思ったんです。つまり、福岡の魅力として歴史と文化はありますが、海が福岡の魅力につながっているのかという並列としての表現はどう思われますか。

○委員 表現上どうかというのはあれですけど、そういう意味で言うと、言葉はいろいろご検討していただいて結構だと思うんですね。ただ、海を忘れたから、この国全体が危ないんですよ。日本はアジアの国と違って世界に冠たる場所ですから、そこをちょっと念頭に置いていただければいいと思います。

○委員 まず四つの都市像ということで10年後を考えていくわけですがけれども、過去の目標の達成度とかいろいろかんがみて、これから先その四つの区切りでやっていくのか、それとも五つ目、六つ目を増やすのか、その辺の定義はどうなんでしょうか。これは増やしてもいいというお考えなんでしょうか。

○委員 逆に私は一つにすることを提案します。四つも五つも並んでいると外から見て非常にわかりにくいです。その下の各論で幾つかぶら下がっていることについては、皆さん、多分足したり引いたり、いろいろご意見はあると思うんですけれども。増やすだけの議論ではなく、減らして一つにまとめる、もっと大きなものを置くということを同時にご議論いただいたほうがいいかと思います。

○委員 だから、今これを読んでいても、この活字だけを見ると、こういう問題は普遍的な内容というか、これから10年後もあまり変わりが無い。それに対して、今、エネルギー問題とかもさまざま含めて、新たな時代を迎える局面です。それで、福岡の特徴がない部分から見たら、こういう書き方が無難というか普遍的であると。これにとらわれて議論していくのか、それとも、さらにいろいろな考え方を入れるのか。今、その辺で一つにまとめたらというご意見が出たんだろうと思いますけれども、その辺について会長がどう思われるか、役所側もどう考えるのかです。これにとらわれて、この文言だけで議論していくのかということなんです。

○星野部会長 わかりました。この四つの都市像もそうですし、次回お話をさせていただくこの二つの部会の八つの目標についても、必ずしもこれが絶対ではない、追加はできるとお聞きしていたんですけれども、委員のお話のように、これを一つにまとめるという考え方も含めて、ちょっと事務局のほうからお話しいただけますか。

○事務局（藤本） 今ご質問の件ですがけれども、今回、基本構想を案として四つで出させていただいておりますのは、現行のものが四つの都市像であった、その方向性については大切にという声が多かったので同じような形にしておりますが、この形式にこだわるものではないので、自由にご議論をいただければと考えております。

○星野部会長 ということは、これに付加する、あるいは全体を包括して最終的に一つに設定するといったことも可能ということですね。

○事務局（藤本） はい。

○星野部会長 よろしいでしょうか。

○委員 枠組みはわかりましたので。多分、各委員いろいろな意見があるんだと思うんですけども。私が一つと言った理由だけちょっと補足させていただくと、だれに読んでもらうかというときに、もちろんまず市民ですよ。それから、さっき池内副部会長もおっしゃっていた将来の市民です。そういう話もあれば、外部の企業や投資家、取引先というのもあります。そういう人たちにわかりやすさがないといけません。福岡は何を目指しているのかという明確なメッセージがまず一つあるべきじゃないでしょうか。特にここは成長を議論する部会だと理解していますので。それで、その先に、じゃあそれは何かということで、いろいろ各論にブレークダウンされてもいいと思うんですが。

そのワンフレーズがあるかないかが先々の成長性を大きく左右するのではないかと私としては考えています。

○星野部会長 つまり、本来であれば、例えば福岡はこういう都市といった一つのフレーズでおさまれば一番わかりやすいと。ただし、要素としてはいろいろ入れていく必要があるんだと。それが箇条書きで四つになるのか五つになるのかは別としてと。そういう考え方でよろしいですね。

○委員 はい。

○星野部会長 今の件について、ほかの委員の方は。はい、お願いいたします。

○委員 私も、福岡の将来像を考えていく上で明確なコンセプトというか、キーワードのようなものがあつたほうがやっぱりわかりやすいし、皆さんもその方向に向かっていくと思うんですね。ただ、これが一番ベースになるものとして考えたときに、取り組みの内容をあまり一つに集約化してしまうと、そこから先の広がりなくなるので、例えば、こういう4本柱は4本柱で生かしつつ、それをトータルでまとめるようなキーワードというかキャッチフレーズというか、コンセプト、全体観をあらわすようなものをその上につけてみるというのもアイデアとしてはあるかと思います。

○星野部会長 なるほど。今、委員の言われたのは、やはり一つのフレーズのもとにいろいろな要素が入る、それがわかりやすいのではないかということです。どうぞ。

○委員 もう少し補足すると、この四つの柱を読んだときに感じたのは、例えば、以前の第8次基本計画のときに描かれたものとの微修正の内容を見てみると、3番とか4番に「魅力が人をひきつける」「存在感」とかいう表現が出てきていて、内容的には充実していたかもしれないけれども、外から見たときにそういう評価を受けられていないというか、どちらかというところとアピール性が低いというところが一つポイントにあるのかなど。この微修正の内容の意義としてはですね。ただ、どんな魅力が人を引きつけるのかとか、どんな存在感を示したいのかとか、「どんな」のところをこれを読んでいてもよくわかりません。例えば、その「どんな」に当たるものをあらわすキャッチフレーズがあるといいんじゃないかと思いました。

○星野部会長 そうすると、先ほど委員から出た、だれに向けてのというのがありますね。つまり、対象が市民であるのかということを考えていくと、これは結構ばらつきがありますよね。ですから読んでいてわかりづらいのかとも思うんですけども。そういう意味では、だれが目線でだれに向けてのメッセージかということが一つあって、その中で内容的に充実したものが入っていくとわかりやすいですね。

これについてまだほかにご意見があれば、はい、お願いします。

○委員 今の議論にちょっと触発されてお話をしたいと思います。

都市は一つですけれども、非常に多面的なので、おそらく四つの観点から見たそれぞれの都市像という位置づけなのかなと思うんですが、もしそうだとすると、そういったことが最初の趣旨のところにも書かれていないので、なぜこの四つなんだろうという疑問が当然わいてくるんじゃないかと思うんですね。

もう一つは、2、3、4に関しては、福岡の歴史というか今までの実績に基づいてこの文言が出てきていますというのが最初の一文に出てきているんですけども、1はそういうことがないということです。そこがちょっと気になりました。

あと、四つの都市像、あるいは四つの多面性の相互関係みたいなものもちょっとよくわからない部分がありました。それにもどこかで触れていただければいいのかなという気がします。

それともう一つは、2で「持続可能」という言葉を使っているんですけども、ここは非常に盛りだくさんですが、持続可能という言葉は普通かなり多義的に使われているんですけども、ここでは、環境が循環する、あるいは自然環境がきちんと保全されるようなことを意味して言われているのか、あるいは、突発的な災害に対してもある程度安心して暮らしていけるということを持続可能と言っているのかです。あるいは、もっ

と重要なのは都市経営の観点でして、財政的に見てもきちんと持続可能であるというようなことも本来ここでは重要じゃないのかと思います。その辺があまりここに書かれていないので、この持続可能という言葉は結構よく使われるんですけども、後で掘り下げていけるように、頭出しをして意味をきちんと整理しておいていただいたほうがいいかなという気がしました。

○星野部会長 ありがとうございます。

そうですね、1、2、3、4を見ると、1はなりたい都市という願望が書かれていますけれども、2、3、4は実際の現在の延長線上で書かれている内容でもあります。この1、2、3、4の整合性についてもやはりもう少し視点を合わせておいたほうがいいのかなということが出てきます。

そうすると、まだまだご意見はおありかと思うんですけども、ここで今一つのフレーズを出すのはなかなか難しいかと思うので、この四つ出されているものをたたき台として、中に入れるべき要素を少し抽出するとすれば、何は押さえるべきでしょうか。今、委員のほうから、もっと多面的な意味の持続性を入れるべきというお話もありましたけれども、要素としてこんなものを都市像の中に盛り込むべき、この四つの中でおさまり切れない部分、これをぜひ押さえるべきというようなことがあれば、皆さんご提案いただけますでしょうか。

○安浦会長 その前に、最初に部会長がおっしゃった4ページの基本構想の立場はこれでいいかを皆さんにもう一度確認してからやったほうがいいと思います。後で足元が揺らがないという意味でも。

この基本構想というのは、福岡市の市政運営の基本となるとともに、市民をはじめ、まちづくりに携わる産学官民、多くの主体が共有するものです。要するに主語は、福岡市の当局だけではなくて、市民及びすべてのステークホルダーということになっています。そして基本計画、実施計画は、あくまでも福岡市当局が主語になっているものです。そういう視点で見たときに、今からの議論で、部会長おっしゃったようにキーワードを出していくというときに、こういう考え方でいいかという確認だけはしておかれたほうがいいと思うんですけども。

○星野部会長 この基本構想、基本計画、実施計画の内容というのは、ここで討議するものではなく、既に与えられたものということなんでしょうか。そのあたりまでも我々はこの審議会で少し審議するべきなのか、それはいかがでしょうか。

○安浦会長 いえ、基本計画、実施計画に関しては市当局の問題であるということをお願いしたいと思っておりますし、前の総会のときもそう申し上げました。ただ、基本構想については、表現として広くという言い方をされていて、産学官民の多くの主体が共有するものだという視点を委員の皆様で共有していただけるかをちょっとご確認いただければということでございます。

○星野部会長 ありがとうございます。この部分についてまず確認をして、それを前提として進めていくものなのか、あるいは、事務局としては、これは既に与えられているのか、事務局のほうからちょっとそのあたりの確認をお願いできますか。

○事務局（藤本） ご説明いたします。基本構想、基本計画、実施計画についてですが、これは、「福岡市市行政に係る重要な計画の議決等に関する条例」という条例がございまして、その中でこういったものは議決をするんだというようなものを定めているんですけども、基本構想については、「総合的かつ計画的な市行政の運営を図るために定める構想をいう」細かいことではなく比較的大きな方向を定める構想だと。基本計画については、「基本構想に基づき市又は区の行政分野全般に係る政策の基本的な方向を総合的かつ体系的に定める計画をいう」というところまでが決定しておりまして、実際に多くの主体が共有するものといったところまで具体的には定められておりませんので、そこについてはその範囲の中でご議論いただいてもいいかとは思いますが、方向性としては、基本計画、実施計画は、実際に市の計画として進めていく、ほかの主体の皆様も巻き込むということで、主語を市という形でいこうというふうにしておりまして、基本構想については、いわゆるみんなで共有するビジョンというか将来像ということで、その性格から、多くの主体が共有するものという形でご提案をしているところでございます。

○星野部会長 提案をいただいているということは、ここでそれをもう一度審議をする必要もあるということでしょうか。

○事務局（藤本） ある程度の大まかな枠組みが決まっている中でございますので、自由にご議論いただくというよりは、ご了解いただきたいと思っています。皆さんから、違えらうというご提案であれば、当然、我々としても少し考え直さなければいけません。

○星野部会長 ありがとうございます。

これは部会に入る前に総会でお話をいただくべきだったことのようにも思うんですけども、この基本構想、基本計画、実施計画については、皆さん、この考え方で了解いただけるのか、あるいは、ちょっと違っているんじゃないかというご意見がもしありましたら、いただけますでしょうか。

○委員 ちょっとまた観点が違うのですが、この中に盛り込むべきかどうかというのについては多分、異論が多くて反対になるのだと思いますが、基本構想と基本計画を読んだ時に、いただいた平成15年の基本計画では、大きく「自由闊達で人輝く自治都市・福岡をめざして～九州、そしてアジアの中で～」とあるのですが、非常にいい語呂だなと思います。本来、これが基本構想の頭に来るのかなとおもいながらみていました。また、基本構想と基本計画でダブっているところが多すぎるのかなとも思います。本来であれば、なぜ今の時期に新構想なのかを、どこかに入れるべきではないのでしょうか。去年のアイランドシテイフォーラムの時も意見を出したのですが、3・11大震災があり福島原発事故があり、それから今から高い確率で発生するといわれている東海、南海、首都直下型地震を考えた時、九州の位置づけ、福岡の位置づけ、北部九州の位置づけが大きく変わるのだと思います。大転換の時代への挑戦というのが都市計画にあります。今回の新しい基本構想なり基本計画をつくる時に、そういったことを市民含めて全員が認識していきたい、そして新しいまちをつくる、とした方がいいのかなと思いつつこの書類に目をとおしていました。

ですから、そういう内容をどう入れるかということです。先ほど来、四つの都市像というのがありますが、判りやすく言えば私は「住みたいまち」「行ってみたいまち」「働きたいまち」この三つと思うのです。皆さんに出すものとしては、この三つではちょっと言葉が足りないかと思いますが、四つの都市像の前に、先ほど意見があった大きなキャッチフレーズが基本構想のところであって、即基本計画に行くとした方が判りやすいかなとは思いました。

○事務局（藤本） ご指摘のあった、そもそもの策定の理由みたいなところについては、1回目に基本計画の策定について、という資料で趣旨、背景とかを一たんご説明してご了解いただけたということでは。

○委員 いや、了解はしています。だから、基本構想なり基本計画の文面の中に、19ページを見ましたら、「福岡市の広域的な役割」の中の「大都市としての福岡市の役割」ということで文言は入っているんですけども、それぐらいに逃げておかないと福岡市だけ特別で出すというのはちょっと問題があるのかなと思いつつ見たんですが。それは

出していいんじゃないか、そこが先に来たほうがわかりやすいのかなという感じを持ったんですけども。

○事務局（藤本） 今ご指摘のあったように、前回、基本構想と基本計画でかなりかぶりが多かったということで、今回は前段の都市像、こういうものが将来あるべきまちの姿だよという部分だけを基本構想にして、例えば10年間でこういうふうにしていくんだというのは基本計画のほうにある程度入れていきますので、前回の基本構想とあわせて、今回ご提案している基本構想、基本計画を見ていただいたほうがひょっとしたらいいかもしれません。具体的なことなりキャッチフレーズ的なものは基本計画の中に入れていくところもございますので、もしあれでしたら、少し議論が進んでまた返ってきていただいてもいいかなと思います。

○委員 2頁もとらずに、基本構想を1ページでスパッと打ち出したところで、即基本計画に入る方が判りやすいんじゃないかという気がしますが。

○事務局（藤本） そのあたりはご議論いただけたらと思います。

○委員 それは私の考えなので。

○池内副部長 ちょっと複雑になってわかりづらくなってきているんですが、基本構想自身は共有するものであって、私たちのこの会では基本計画をつくるという考え方でいいんですよね。そう考えると、構想のすり合わせも必要ですけども、ここは1回共有して、これを頭に入れてそのまま計画を立てましょうということでいいんでしょうか。すみません、私もちょっと理解が難しくて。基本構想があつて計画となると、私たちはとりあえず10年計画をつくるので、このイメージを持ちながら次に進んだほうがいいのかなと思ったんですが、どうなのでしょう。

○事務局（藤本） お願いいたしましたのは基本構想と基本計画の両方についてご議論でして。

○池内副部長 両方なんですわね。

○事務局（藤本） はい。こういった将来の構想に基づいて基本計画ということで、セットでご議論いただけたらと思っています。

○池内副部長 それだと、また覆すことになりますよね。

○星野部長 それは非常に大変な話で、基本計画は10年間、そして実施計画は4年間ですが、基本構想になると、例えば前回からと言うと25年使われたものですよね。そうすると、このわずか2ページの中に書かれている25年の福岡を考えてという、そこをまず押さえないと次の10年に行けなくて、10年をするための次の目標に行けないとなると、ここの部分が一番大事なことになるかと思うんですけれども。

ここではそこからつくることになるんですか。私の考えとしては、基本計画の10年間の考え方、10年後を見据えて福岡を考える、そして、そのために目標を立てて、具体的に何をしていくかということがここで審議される主なものだと思っていたんですけれども、その大枠25年までいくわけですか。

○事務局（藤本） 基本構想と基本計画についてご審議くださいということで諮問させていただいておりますので、議論はしていただくんですが、ただ、先ほどからお話があったように、今回、我々がいわゆる微修正という形で出させていただいております四つの都市像は、そもそも年次を定めずに定められている四つの都市像について、いろいろな方からご意見を伺ったところ、それは大きく変える必要はないだろうというご意見が多かったと判断しております。当然微修正はしておりますが、今までもこういった形で目指してきたし、将来も同じような形で目指していこうというものでありまして、具体的に10年後にどういうまちにするのかについて、できれば多くのご議論をいただければありがたいと思っております。

○星野部長 そうすると、例えば25年というふうに具体的に定めないわけですが、福岡を一つのフレーズで言いあらわすようなものは、むしろ10年の基本計画のほうに出されるもので、基本構想のほうに入れると、そこでそごがあると、かえっておかしなことにもなるんだと。ですから、基本構想の中では、一つのフレーズでこんな都市をと考えながら要素を入れていくというよりは、考え方だけを持っていて、基本計画の中で特色を持ったフレーズを持って計画を立てていったほうが良いということですか。

○安浦会長 本当は総会でそこをはっきりしておくべきだったわけですが、ごさいますけれども。部長が先ほどおっしゃったようなキーワードを出されたときに、基本構想と基本計画の違いについて、先ほど私が申し上げましたような4ページの認識をもとに、「これは基本構想に使っていい言葉」「これは基本計画のほうに入れておいたほうがいい言葉」

といったセレクションのある程度のベースとなるものを、ぜひこの部会の委員の皆様で共有した上で議論していただきたいというお願いでございます。

基本構想の細かな言葉というのは、もう一つの部会の議論の中から出てきたものを両方の調整協議会で少し整理させていただいて、文言として修正するような案がそこできたら皆様に第3回のところでご提示させていただき、そういう形で進めさせていただければと思いますけれども、いかがでしょうか。

○星野部会長 わかりました。

○委員 いきなり「海」でスイッチが入っちゃったものですから（笑）。私は小学校まで福岡で暮らして、東京を見て、今はギリシャとか世界のことをずっとウオッチしていますので。

簡単に申し上げますと、基本構想は南十字星というか、目指す方向にある遠くの星のようなものだと思うんですね。一方で基本計画は、私は常に企業さんにマネジメント、戦略をどう立てるかということでペスト分析（PEST分析）と言って、政治、経済、社会、高齢化も含めた分析をしています、これが入るような感じで整理していくものだと思います。

そういうことで基本構想について言うと、繰り返しになりますけれども、日本人が一番失ったものは「海」だと思っているんです。つまり、内向き、村社会というのをどう変えていくのかです。今からはもっと世界を広く見るんだと。

私が基本構想で特に言いたかったのは一つでございまして、今から20年、30年は大陸の時代だということです。つまり、パワーバランスが変わって、イギリス、アメリカより中国とかが元気になっていきますので、そことどうかかわるのかです。加えて、それは九州、福岡県、福岡市の人たちがそういう意識を持つというところで、「海」だと。そういう大陸の時代だみたいなことで言うと、2ページの3や4などがとても大事になると思っています。

それで、基本計画のほうは、3ページに人口、高齢化とかいうのがあって、それはペスト分析ということですから。そういう整理かなと思った次第です。

○星野部会長 それでは、もう一度ちょっと4ページの大きな枠組みを見てください。もしこれに修正を加えるのであれば、総会のところでもお話をいただくことになりますので。この位置づけですよね。基本構想とは大きな枠組み、あるべき姿を大きく描くものだと。基本計画とは10年間、実際にそれをやっていくものだと。そして基本計画をこの中で審議いただき、そして実施計画につなげるんだと。

基本構想で、今、委員から、福岡にとっての海というお話もいただきましたけれども、大きな意味で福岡がどういうまちでありたいのかをもう少しここで固めていくということになるんですかね。また、先ほど別の委員からは、持続性という意味では、今よく言われる環境の持続性だけではなく、福岡の持続性として、もっと多面的にいろいろ考えていこうよというご意見をいただきましたけれども、このようにして、あるべき姿として少し広くとって考えていくべきかと思うんですが。

ほかにこの件で、お願いいたします。

○委員 皆さんの意見をお伺いして、この基本構想自体にとにかく言うつもりはないんですけれども、厳密に言うと、4ページの基本構想の中に、「市民をはじめ、まちづくりに携わる産学官民の多くの主体が共有するものである」とありますから、共有すれば共有するほど、わかりやすい、理解しやすいものでなければならないというのが原則になってくると思うんですね。

これは、ほんとうは議会で言うべきことでしょうけれども、結局、この基本構想ができたなら、それを市民に知らせる手段としてはホームページと「市政だより」ぐらいなんです。我々市民の代弁者として言うと、実際、この基本構想を市民はあまり気にしていないのが実情だと思います。私がいろいろな場所で市民の方々とそういう会話をしますと、先ほど委員のほうから言われたように、わかりやすい大きな目標が基本構想であって、あとの細かい各論になると市民はものすごく興味を示します。例えば、今までやってきた福岡市の施策の中で、ごみの減量をしましょう、有料化、1袋（45リットル）45円ですよ。「わあ、高いな」とぶつぶつ言いながらも、今ずっと持続的にごみを減量しているんですよ。そういった各論になると強い市民を抱いている福岡市というのは、総論になると弱いというのが現状だと僕は認識しています。

だから、明確でなくても目指すべき理想をもっと掲げていただいて、それに向かう手段を基本計画とかで考えていくような流れにするのがベストの選択ではないかと自分では思っているんですけど。あくまでも、これは市民の声と思って受けていただいたらありがたいです。

以上です。

○星野部会長 ありがとうございます。基本構想のほうはあるべき姿としてわかりやすい全体像を示して、基本計画の中で具体的なものを入れていくべきというご指摘をいただきました。

ほかに、基本構想について。全体の枠組みもそうですけれども、今挙げられている四つの都市像について、これに何か付加するべきもの、これは少し違うんじゃないか、そ

ういうご意見もあわせていただけますでしょうか。

○委員 すみません、くどくど言って。人間ってせいぜい三つですよ。だって、市民の方も、「えっ、四つ？ 覚えられへんわ」と。フランス人は二つですよ。だから、三つとすると2、3、4で、1はもっと前文に落とすというか。

やっぱり三つですね。四つは多い気がします。

○星野部会長 なるほど。

○委員 今ご意見が出ていますように、この基本構想をつくるということは、答えが出るかどうかは別として、ここでやるのは大変な作業だと思います。なぜかという、私も議員の立場で言うと、この基本構想ができ上がって我々市議会が動くわけです、これの頭をつくるって大丈夫かなと思うからです。まあ今、一つにまとめるというご意見も出ていますが、それはそれで、わかりやすいほうがいいと私も思います。

逆に、細かい部分で言ったら、「持続可能」という話も今出てきましたけれども、こういう「自然と共生する」とか、これは各論に入っていくんです。実際、ごみの減量とかをずっと推進しているという意見も出まして、やっているんだけど、「自然と共生する」とか言ったら、多分市民は共感しないと思います。開発において共生していない細かな問題がいっぱい起こっているわけですよ。市場経済における、いわゆるマンション開発、全国で一番マンション紛争が多いとか。とにかくまちが大きくなればなるほど、自然というのは破壊されていくわけですよ。

そういった部分を含めたら、僕は、基本構想の都市像がこの文言でいいかと考えたら、基本からちょっとつまずきがあって、全体的に見直す意味においては、もしうまく進めば、わかりやすく単純明快な一つの目標が出てくれば、それにこしたことはないと思うんですけど。

○星野部会長 確かに、今挙げられているこの1、2、3、4の中で、1の「自律した市民が支え合い心豊かに生きる都市」というのは、こういう都市でありたいというもので、2、3、4は今の延長線上で考えられるということであれば、例えば、1番のこうありたいというものを出しながら、具体的な中身としては今までの福岡をある程度基盤としながら、こういう都市にしていきたい、そういうまとめ方をすると少しはわかりやすくなるのかなと。ですから、委員の皆さんが言われたように、一つのあるべき姿、そして、具体的なものとして各論を三つぐらい挙げていくんだと。例えばそうやって考えていくとすれば、この2、3、4で挙げられている中身ですね、ここではどういうことを盛り

込んでいくのかです。

ちょっと今の繰り返しになりますけれども、2番の「自然と共生する持続可能」というのはもっと多面的な持続可能性ということに持っていく。3番の「海と歴史と文化」というのは、福岡の魅力を挙げてあるわけですがけれども、海の位置づけを少し考えて「海にはぐくまれた豊かな歴史と文化」とするとかですね。また、4番は、これから一歩前に出るために「活力と存在感に満ちたアジアの拠点都市」でありたいんだと。そうすると、この2、3、4というのは、生活面でも、先ほどの「住みたいまち」「行きたいまち」であるという意味でも、わりあいバランスがとれているのかなと思うんですけども、この内容でどなたか付加していただくことなどは。

○事務局（光山） 基本構想の全体像のわかりやすさから四つとか三つとかいうお話がありました。ちょっと事務局から補足でご説明をさせていただきますと、この後に基本計画のほうをご議論いただく形になりますが、基本計画の施策一覧表ということで、前回、資料8で示させていただいています。A3のペーパーでございます。

私ども事務局といたしましては、これまでの基本構想と基本計画の重複の部分をかなりシンプルにしております。前回の基本構想は四つの都市像、それから基本計画が18の政策目標ということで、いわゆる都市像と何をやるかが非常に複雑で数が多かったということもありまして、四つの都市像に八つの政策目標ということで構造をシンプルにしております。1つの都市像に二つの目標を掲げてやっていこうという形にしておりますので、全体の基本構想の姿をご議論いただくときには、この基本計画の施策とのヒエラルキー、構造の問題も少し頭の中に入れてご議論いただければと思っております。

○星野部会長 構造を頭の中に入れていくとおっしゃいましたが、その考え方は、4ページの基本構想がまずあって、そういうなりたい福岡に基づいて具体的な10年計画をつかっていって、そしてそれを具体的な4年間の計画にするという考え方と逆じゃないかと思うんですね。ここで今求められているのは、あるべき姿はあるべき姿で議論して、それに基づいてこれから計画を立てていくということであって。つまり、今、枠組みを念頭に置くというのは、基本構想は今大きく手直しをしちゃいけないわけですし、それはちょっと逆じゃないかと思うんですけども、いかがでしょう。

○事務局（光山） 当然そうです。我々といたしましては、基本構想と基本計画をしっかりとご審議いただきたいと。非常に深くて難しい課題だと思っております基本構想までお願いしていますので、そこは自由にご議論いただいて結構でございます。我々事務局の案としてはそういう整理をさせていただいていますとご参考までにお示しさせていただきます。

いたにすぎません。星野先生がおっしゃるように、あるべき姿がどうかというところから何をすべきかという話に入っていく、それは当然でございますので、そこはしっかりご議論いただければと思っています。よろしくお願いします。

○星野部会長 それでは、先ほど提示いただいた四つの都市像を単に組み直すのではなくて、福岡全体の大きな前提を持って、それから具体的なものを三つ程度入れていく、その中で今四つ挙げられているものをたたき台として変えていくとすれば、何かほかにご意見がございますでしょうか。

○委員 すみません、また議論を逆戻りさせるのですが、まずこの策定の趣旨のところに、今回何故入れるかという文言をもう少し入れる事と、目指す都市像は三つにできませんか。「住みたいまち：自然と共生する生活の質の高いまち」「行ってみたいまち：海と歴史と文化の魅力が人をひきつけるまち」「働きたいまち：活力と存在感にあふれたアジアの拠点都市」と三つにしてしまった方が判りやすいと思うのですが。しかし事務局案で行ってくれということであれば、これはこれでそれ程の問題でもないと思います。

○事務局（藤本） ご意見ありがとうございます。生活の質部会のほうでのご意見もありますので、こういった形にしますというお返事はちょっとこの場では。ご意見をいただければと思います。

○委員 では、私も単なる意見をいいですか。2、3、4というのは縦にあって、1は横なんです。実は、祭りやスポーツはすごい大事で、2、3、4が全部かかってくるので、ほんとうは2、3、4が縦で1が基盤のような気がします。ブレイクダウンすれば最後は四つになるかな、整理の仕方かなと。私の意見です。

○星野部会長 委員の言われたのは、例えば、「住みたいまち」「行きたいまち」「働きたいまち」というような分け方ということでしょうか。

○委員 はい。「住みたいまち」の後ろには当然、安全である、環境も豊かであるというようなことがくるんでしょうが、そのフレーズとして1と2のどちらを取るかという言葉の関係はありますね。それと「行ってみたいまち」としては3番、それと「働きたいまち：活力と存在感にあふれたアジアの拠点都市」、これはもう少し変えてもいいとは思いますが。

○星野部会長 なるほど。わかりました。

○委員 私、自分で事業をやっているの、それを自分の事業に置きかえたらどうかと考えたときに、委員のおっしゃったように、この1番というのは、会社でいえば人材育成という観点ですね。だから、我々だったら自己肯定感、自分はちゃんとできているよねと思っているような人間を社内でどんどん育てていこう。これは横のコンセプトですね。

そして、この三つは、ある意味ビジネスモデルみたいなものかと思うんですね。福岡市を売り込む、対外的にシティーセールスしていくといったときに、うちは持続可能な都市ですよだとか、歴史と文化の魅力が引きつけている都市ですよ、アジアの拠点ですよ。僕はそういう整理というか、見方ができると思っています。

それで、あと何が足りないかという、財政です。人・物・金で言ったときのお金です。

一市民、一経営者の感覚からすると一番興味があるのは、人づくりはすごく大事だよ、対外的に売り出すのも大事だよ、だけど、福岡市って財政的にどうなの？ もつの？ ということです。10年後とかを考えたときに、要は都市としてきちんと経営できているの？ というところが、ある意味、もう一つ横のラインとして必要なのかなと思います。それが5番目ぐらいに来るような形ではないでしょうか。

先ほどのキャッチフレーズ云々というのは、一つは必要だとは思いますが、これをまた三つにするとか二つにするというのは、後の続きだとか、こういう構造とかを全部抜本的に変えることなので、正直無理があるかなと思います。けれども、五つ目に財政に特化してまた何かいろいろやっていく、今みたいな原発をどうするかだとかを含めて考えていく、それは視点として一つ追加していてもいいのかなと思います。

○星野部会長 今のご意見は、例えば、先ほどご意見いただいた「持続可能性」という言葉を、単に自然環境との間だけではなくて、財政基盤の健全化だとかを入れると、そういう形でまとめられるのではないかなと思うんですけど。つまり、広くとった持続可能性だと。

○委員 そうですね。ただ、ここを見ていると、あくまで自然という打ち出しが強いので、それはそれで、対外的に打ち出すときに、福岡は自然に近い都市ですよということと僕はあると思うんですね。それと、身内の財政ということで、自分たちがここに住んでいてどうなのかというところを別に分けて横に取り出してもいいのかなと僕は思っていますね。

○事務局（光山） 事務局から少し補足を説明させていただきます。

財政運営に関する部分につきましては、22ページのいわゆる今回の基本計画に当たっての基本姿勢の（1）行政運営の基本姿勢、②持続可能な行財政運営と、確かに行財政運営の修飾語として「持続可能」という言葉を使わせていただいています。ご存じのとおり、福岡市の財政状況はなかなか厳しいところがございますので、ここに書かれたような大きな考え方を基本計画の中にうたっているということがございます。少しわかりづらくて申しわけございません。

その上で、4ページに戻っていただきまして、総合計画の体系といたしましては、先ほどからご議論いただいております基本構想、大きな都市像、それから基本計画、10年間何をしていくか、まちづくりの目標を示す、その下に実施計画、4年間でまさに何をやるものか、具体的な事業をここに書いていくという形になってはいますが、実は、ここに記載しておりませんが、この実施計画と対をなす4年間の計画で、行財政改革プランというものがあります。4年間の行財政運営の方向性と、行財政の何を見直していくかを具体的に記載していくというプランをまた別につくるという形です。基本計画の22ページに財政運営の大きな考え方をお示した上で、具体的にどういう財政運営をしていくのかは、この4年間の実施計画と対になる形で、行財政運営の改革プランというものを今同時並行で策定していこうというところがございます。

少し事務局からの補足説明させていただきました。

○星野部会長 今までのご意見を少し考えながら、具体的に都市像というものをどうつくっていくかを考えてみたんですけれど、例えば1番の「自律した市民が支え合い心豊かに生きる都市」を福岡が目指すもの全体を横ぐしにしたものだとしたら、これは、どこの都市にでもあり得るようなことでもありますし、あまりぴんとこないなと感じるんですね。

確かに、この下に具体的な福岡らしい、さまざまなもの、持続可能、福岡の魅力を中心として人を呼び込めるような、一つの拠点都市として競争力を維持しているようなと、こういった中身を見ていくとわかりやすいんですけども、1番のようなものが表題になったら、福岡のあるべき姿が非常にわかりにくいなと感じます。

一つにまとめた前提になる部分について何かご意見いかがでしょうか。

先ほどの一つにまとめるというご意見からすると、こういった考え方はいかがでしょうか。

○委員 僕は実は、もう違和感がなくなったので黙っていたんですけども。多分そのポ

イントは、安浦会長がおっしゃった「だれがこれを共有するんだ」なので、そこについて、およそすべての委員が、わかりやすくして、市民も産官学民も外部の方もきっと異口同音にずっと思い続け、しゃべり続けていって、議会でも、それを基盤に議論がされ、市民にも情報が発信されてと。そこまでは多分、おおよそ方向性が出たような気がするので、そこで私は一たんとまっています。

○星野部会長 安浦会長、いかがですか。

○安浦会長 部会長、あるいは甲斐委員から具体的にご提案ございましたような整理の仕方はあり得ると思いますので、ここの部分については、一つの提案として調整会議のほうにかけさせていただきたいと思います。1番を横軸で大きくすると。それを標語的にするのか、趣旨の中に書き込んでしまうのかは調整の中でやらせていただきます。そして、2、3、4の中に、今日いただいたようなご意見をもう少し加えて、具体的なイメージを出す。この部会として、そういう方向で検討するほうがよいということであれば、調整会議のほうにかけさせていただきたいと思います。

○星野部会長 ありがとうございます。もう一つの部会で同時並行で同じ議論を進められているわけですし、こちらの中では、今、会長にまとめていただいた考え方で話をしていき、そして両方で調整しながら1度一つの大きなあるべき姿を描き出して、その中に幾つかの要素を入れていくと。

そういうことで、少し案を出して、その後にこちらでご審議いただくということでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○星野部会長 ありがとうございます。

今かなり時間をとりましたけれど、これは非常に重要なところでしたので、あえて途中で切らずに進めさせていただきました。

それでは、次にパート2の部分ですね。パート2の部分は3ページから6ページです。これも基本計画のあり方を考えるところで重要なところではあるんですけども、後半は歴史を述べているだけなので、あまりこの歴史についてのコメントは少ないかと思えますけれども。

基本計画のあり方について。先ほどの基本構想に基づいて、福岡市が体系的・総合的に次の10年間を考えるというのがこの基本計画ですけれども、この内容について、特に、基本計画策定の趣旨についてです。私は、この程度でいいのかなというのは考えて

いたんですけれども、皆さんご意見がおありかと思しますので、これについていかがでしょうか。

先ほど事務局のほうから、むしろ、こちらのほうでは何らかのキャッチフレーズ的なものを持って、こんな福岡とわかりやすく描いていくことが可能というふうにお話いただきましたけれども、ここと、アジアのリーダー都市との関係について、もう一度ご確認をいただけますか。つまりそこが一つキャッチフレーズとしてできているといえ、できているようにも思いますし、それをこだわることなく、この基本計画では考えるべきなのかです。少しご説明をお願いできますか。

○事務局（藤本） 基本計画の3ページのほうに、「人と環境と都市が調和のとれたアジアのリーダー都市」とキャッチフレーズ的に掲げさせていただいているのは、後でも出てまいりますけれども、20ページの都市経営の基本的方向性ということで、基本計画の中の基本コンセプトとして挙げさせていただいているものを、当初の趣旨ということで引用させていただいているということです。基本計画で具体的な目標を掲げてご議論いただくんですが、これは、その目標を実現していくためにどういうコンセプトで都市経営をしていくかということですので、基本計画の基本的なコンセプトというような形で、市長がこういうことにしていきますと、10年間でこういうまちにしますというのをワンフレーズでご提示させていただいているというところがございます。

○星野部会長 ということは、今、基本的なコンセプト、方向性と言われておりましたので、必ずしも、10年後の目標年次にこういう都市としてと、それをそっくりそのまま入れてくる必要はないということですね。

○事務局（藤本） あくまで素案ということで、市長から、自分はこう考えているということでのご提案です。

○星野部会長 わかりました。そのように位置づけをさせていただきます。

そうすると、基本計画設定の趣旨ですけれども、今こういう福岡であって、こういった福岡を10年後にはこうしたいというのが基本計画策定の趣旨なわけですけれども、この内容について。はい、お願いします。

○委員 3ページから6ページまでの内容でちょっと気がついた点です。

3ページに関して。先ほど委員がおっしゃっていましたが、東日本大震災と原発の事故以降、日本の国土計画が大きく変わろうとしていると思うんですね。例えば、

東京も今後大震災の危険性が非常に高くなってきているというお話もありますし、それから、首都機能のバックアップをどこかにつくっていく必要があるだろうということで、福岡も今、有力候補の一つだとお聞きしています。そういった日本の国土計画全体が変わっていく中で、これからの福岡の位置づけについて時代を読みながら考えていく必要があるんだと。それが向こう 10 年間を考える基本計画の一つ大きなバックグラウンドになるんじゃないかと思っています。その辺の記述がちょっと弱いかなというのが 3 ページの印象です。

それから、4 ページに関しては、先ほど安浦会長のほうから再三にわたりご説明がありましたけれども、この 4 ページの一部はもっと前のほうに持ってきてもいいんじゃないかという気がいたしました。ちゃんと「基本構想の位置付け」の初めのところからうたっていただいたほうがいいかなという気がいたしました。

それから、5 ページに関しては、「福岡市の歩み」の下から 4 つ目と 3 つ目の丸の間が 100 年くらいあいちゃっているんですよね。年表のところもそうなんですけれども、近代の前半の部分の歴史がなぜかそぎ落とされているんです。これはあえて、福岡市が政令市になってからと、中世の歴史とを強調したいためにこうされているのか。あるいは、特記すべきことがなかったのか。ちょっと気にはなりましたね。例えば、港湾のことを考えていく上では、港湾の歴史なんかは近代化の中では欠かせない話なんですね。その辺がちょっと気になりました。

○事務局（藤本） 今の年表の件は、あえてどこを外すとかいった意図は全然なかったんですが、主なものを挙げていった中でこのような形になっております。港湾の関係とか特記事項があるところということでしておりますが、少し間があき過ぎている件については考えたいと思います。

○委員 5 ページの趣旨をはっきりさせたほうが良いと思うんですよね。見出しをつけるとか。

○星野部会長 そうですね。この歴史を見ていうと、前半は非常に全国規模のいろいろな大きな動きがあったのに、それが後半になって、市政以降は福岡の中の話ぐらいしか出てきてないんで、もう少し精査しながら全体の流れとしてつくっていただいたほうが良いですね。

あと、委員から今ご指摘いただいたこと、私も最初に申し上げた、4 ページの基本構想と基本計画と実施計画の関係、こういう福岡のあるべき姿に基づいて 10 年計画があり、その実施計画が 4 年であるというこの枠組みを最初に示さないといけないと思います。

基本構想があつて、後にこれが出てきたんでは、そもそも枠組みからしてわかりづらいので、一番前に持ってきていただく必要がありますよね。

それと、前回の総会でもありましたけれども、基本計画は10年、実施計画は4年とに明確に時間が示されていますが、基本構想というのは、前回から25年だけれども、次は何年間使い続けるのかとか、中期・長期と言いながら、その先の基本構想の考え方があまりわかりません。もう少しこれを明確にさせていただくことは可能ですか。

○事務局（光山） 計画の基本的な目指すべき年次をどういうふうに置くかは、非常に議論があるところだと思います。

今回、基本計画を10年とお示ししておりますが、実は前回まではずっと、基本計画の基本タームは15年でした。ただ、やはり時代の変化が大きいこともありまして、現実的には基本計画を6次、7次、8次とつくってききましたが、10年を待たずに改定して新しい基本計画をつくってきております。ということで、今回の基本計画も10年と設定させていただいているところでございます。

しかも、その上の基本構想——目指すべき都市像として大きな将来像を示すものの年次をどう設定するかというのは非常に難しいことだと思っております。これだけ時代の変化が大きく、先が読めない時代ですので。

そういった意味も含めて、25年前につくって25年後というような一定程度を見据えるというところはあるとは思いますがけれども、明確に計画上、年次を整理していくというのは、事務局としては非常に難しいものでございました。

○星野部会長 安浦会長お願いします。

○安浦会長 3ページで、先を読むのは難しいという中で、3番目の丸の後半に書いてある少子化と高齢化の影響は、唯一読めるわけですね。団塊の世代が間もなく65歳に突入り、そしてこの10年間はその世代が75歳以上の世代に入っていく、そのための最後の準備期間なんです。小川副会長が最後のチャンスですとおっしゃいましたけれども。そこは確実に読めているわけで、それに対する警鐘が弱過ぎるのではないかと思います。明らかに、社会の構造、まちの構造を変えないと、その後は、どんなに格好いいことを言っても、支えないといけない人が圧倒的に増えるわけですから、そこをどうするかです。この部会は、成長のほうの部会ですけれども、成長産業もそこに視点を置いた成長産業というものを考えていかざるを得ないと思います。

○星野部会長 お願いします。

○委員 安浦先生のお話で、私も毎週いろいろなところで話をしておりますけれども、確実に読めるのは人口構成だけです。人口構成には生産年齢人口という言葉などを含めて、人口が変わっていく中で、いかに福岡市の中でマーケットが縮まないようにするにはどうするかが大事だと思います。

その関連で言うと、ここに入れてもらいたい言葉が一つあります。「雇用」という言葉ですね。特に中小企業さんの雇用をどう維持するかは、全国で大きな問題になっています。福岡市さんの取り組みでも、失業者を増やさないというか、雇用という視点で常に見ていく——雇用は経済において一番根本になってきますし、それがこういう人口からも読めてくるので、そこをちょっと入れていただきたいと思います。

もう一つは、基本計画は10年なので、10年で読めているということがあって、いや、読んではまずいんですが、委員がおっしゃったように、プレートが動いていますので、10年という単位で言うと、太平洋側が非常に構造的に危ないという視点です。そしてもう一つ、この国の財政にいつ東日本大震災が起きるか、10年以内に起きるかという視点です。つまり経常収支が本当にやばいので。円高等もありますけれど、原油価格が上がっていますから、国家財政は危機に瀕しています。

この二つは、10年単位で見ると、どこかで考えておかないといけないといけません。このあたり含めて、危機意識というか、危機感みたいなものをもうちょっとどこかに入れていただければということでございます。

最後にもう一つ。すみません、長くなって。私もいろいろな海外の人と議論している中で、都市の競争力を一つだけ言えといいますと、多様な人を受け入れるかどうか、それに尽きるんです。今から日本人が減るわけですから、日本の方以外の方がやってくるということが大事で、そのためにもこの計画で10年後に、韓国の方、中国の方が福岡に来てもいい、働いてもいい、住んでもいいと思わせるところが福岡で出てくればいいのかなど思っております。

以上です。

○星野部会長 ありがとうございます。先ほど委員からいただいた、国土計画の変更に基づいて、福岡ではどういうふうにかという話、今、委員からいただいた、日本全国で起こりつつあることに福岡がどう対応していくのかという話をもう少し中に盛り込んでいくと。

今、こうやって見る限り、わりあいカレントトピックに基づいて、これから福岡はどうしていくかに終始しているように感じますし、もう少し構造的な問題を入れていくべきなのかなとも。

○事務局（光山） 事務局から少し補足をさせていただきます。

委員からの国土的な視点の問題につきましては、我々も一応認識はしております、19 ページに「大都市としての福岡市の役割」ということの丸の三つ目に、課題認識として、今回の大震災を受けて首都圏機能のバックアップ機能を福岡としても将来的には担っていく必要があるんじゃないかと書かせていただいております。しかし、ご指摘のように、「基本計画策定の趣旨」には全く書かれておりませんので、ここは内容を少し検討させていただく方向で整理していきたいと考えております。

すみません、補足説明でございました。

○星野部会長 これはなぜこの基本計画をつくるのかということですので、危機感もそうですし、前提として、ここできっちり押さえていただいたほうがいいですね。

○池内副部会長 私のほうもちょっとダブりますけれども、基本計画策定の趣旨について。こういうことだからつくりますということだと思んですが、先ほどの話でいくと、何をつくるかが多分、基本構想の都市像とダブるから、目指すところがないというか。ただ、これは10年なので、ここにはもう一つ目指すものが必要だと思います。そして、最後の丸がついているところを見ると、「このような認識のもと、福岡市はリーダー都市をめざします」とありますが、これを目指すということでもいいんですかね。何か、丸、丸、丸と来て、最後も丸で、これで締めたということですか。

○事務局（藤本） 最後については、このような形で基本計画を策定しますということですが、先ほどちょっとご説明しましたように、基本計画全体のコンセプトを「人と環境と都市が調和のとれたアジアのリーダー都市」を目指すとしていますので、新しい基本計画を策定するに当たって、一言でどういったものをとということで、ここには引用しているということです。

○池内副部会長 ただ、先ほどお話がありましたように、10年というと、雇用問題などいろいろ具体的なものがたくさんあると思うんですよね。もっとしないといけない、目指すものというか。その下に目標が来ていいわけですが、その間にもう一つ、この構想、都市像とダブってしまうのではなく、「10年だからこれを目指す」というものが具体的にあって、その後に「リーダー都市を目指す」としてはどうでしょうか。「リーダー都市を目指す」というところにぼんっと飛び過ぎていて間がないというか。そこがもうちょっと見えたほうがありがたいなと思います。

○事務局（藤本） 前回、くくったような言葉が何階層もあってわかりにくかったということもあるので、今の段階では、基本構想で将来を目指すということと、基本計画については基本としてこういうコンセプトが一つありますが、その具体的な中身については八つの目標という形で、その中に当然雇用ですとかが入ってと。その八つの目標が実現した状態を目指すんですよということで、この「人と環境と都市が調和のとれたアジアのリーダー都市」というひとくりに今させていただいているところです。

○委員 今、委員からお話がありましたように、国の将来の計画といろいろ整合性をとりながら考えていかないといけない部分があるんですが、特にやはり危機管理という部分、個別においては福岡市は既にいろいろ取り組んできているんですけども、目標の中に具体的に取り入れると。そうした中で、市議会の決議をぜひとも尊重していただきたいということで、ここでご披露させていただきたいのが、福岡市議会としまして、さきの議会において全会一致で、原発に頼らない、自然エネルギーに特化していこうという決議をしておることです。そういった目標、近未来の10年、地震の話——今、委員からもありましたけれども、将来を考えたときに目の前にあるものを解決していかねばいけないんですけども、それも含めた像にさせていただきたいということをぜひここで強くお願いしたいと思います。

10年と区切られているならなおさらですね。それと同時に、さらに30年、40年目標もやんわり入っているけれども、福岡市のを見ていましたら、言葉じりをずっととらえていけば、やれることは何でもやれみたいな形で、最終的にこれだけ全部広がっているわけですよ。だから、なおさら特色が見えにくいんです。例えば、よその自治体は、大きな風車なんかを使った再生エネルギーをやっているところなんかは、こういうのに特化した都市にしていきます、自然再生をやっていく都市にします、工業団地があるところならば、こういうのをやっていきます、というのがあるんですけど、何となく福岡は、支店産業ということもありまして、今までぼんやりした流れになっています。

どうしても歴史というものは外せません。我々も普遍的な歴史の上に、過去の継続によって成り立っていますので、そういった意味においては、先ほどから出ている海の貿易、産業などを中心に福岡が成り立ってきていますので、このあたりというのは絶対外せない部分であるんですけども、一つそういった将来を考えた内容にしていくべきではないかなと思っております。

○星野部会長 ありがとうございます。この基本計画は10年ですから、10年というのは、今全く何も準備をしていないことができるわけではなくて、あくまでも今の基盤に立つ

てその延長線上でできることだと思いますので、より具体性ということを求められるでしょう。また、原子力について市議会で決議されたということでしたけれども、今の延長線上で具体的にアジアのリーダー都市に向かうためにどういうことが考えられるかをきちんと前提として押さえる必要がありますよね。全くそのとおりだと思います。

ほかに、この前提となるこの趣旨で。歴史の部分は先ほどご指摘いただいたところで大体十分かと思いますけれども。

- 委員 事務局の方に毎回過大な要望を出して恐縮ですけど、余力があればという考え方をしていますが、アジアの中の福岡の位置が10年前はどうだった、20年前はどうだったっていうのを知りたいと思います。

10年前、近傍の中国の都市の人口はどれぐらいだったんですか、経済力はどうだったんですかと。この10年で相当違いますよ。20年前、30年前に行けば行くほど違って、福岡は国内でも別にそんなに上のほうでもなかった規模の都市だったと。そこまでさかのぼらなくても、実は10年でこんなに変わるんだということを、福岡の中だけの歴史の話ではなくて、周辺で何が起きているかという記述が少し足せないでしょうか。

後ろに現状と課題で入っているのは、何となく見てはいるんですが、申し上げている意図は、危機感に基づいて、意思を持って何かをしようという趣旨でこれをつくっていると思っているので、私はこの基本計画で、変えられるというメッセージを出してほしい、出したいということです。普通に、今やっているものをホチキスどめして、とじるだけであれば、これだけの人間が集まって委員会をやる価値があまりないんじゃないかと思いますので、そこは能動的に福岡としての考えを出すトーンで、全体を組み立てていただきたいという意味で申し上げます。

- 星野部会長 ありがとうございます。次のパートの議論になりますけれども、私も、世界、アジア、九州ということ挙げられている中で、世界の課題がこういうことがある中で、福岡がどうするかをきちんと盛り込んでいかないと、アジアのリーダー都市というところまでつながらないと事務局のほうにお願いしていたんですけども、まさにそのあたりですよ。単にファクトとして、世界の現状は、アジアの現状はと挙げるだけじゃなくて、もう少し、その中から見て福岡とはどうなのか記述していかないと、この基本計画・構想につながっていかないですね。ありがとうございます。

- 委員 同じ意見ですが、まずは福岡の立つ位置が前2回策定時と違うことを市民、経済人が認識すること、特に福岡の地場の経済人ですね。それとアジアです。今までアジアのゲートウェイ、アジアに開かれた窓口だと言葉だけはずっと言われてきていますが、

実質的にはそこまでいいていません。先ほど委員から出されていましたが、これほどアジアが発展してくると思いきりませんでした。中国の天安門事件、アセアンの発展などを経過し、今アジアと一緒にやっていかないと、日本の発展はありません。その窓口を福岡が一番担えるのだといった大きな意志と言葉をここに入れるべきだろうと思います。

○星野部会長 ありがとうございます。これも繰り返しになりますけど、アジアのリーダー都市を目指すのであれば、福岡がどうあるべきということだけではなくて、もっと広い視点で見ていく必要があると思うんで、それは記述の中に具体的にに入れるべきだと思います。

○委員 少し各論ですが、3ページの3つ目の丸の「地球環境問題の深刻化が進み」というところについてです。福岡市について今から考えていくに当たり、環境レベルで何が問題なのか。地球環境問題といってもいろいろあるわけですけども、どの視点から考えていけばいいのか、少し現状を肉づけしていただければと思いますが、いかがでしょうか。

○事務局（藤本） 計画の構成上、7ページ以降の今からご議論いただくところは現状と課題ということで少し細かく説明したものになっておりまして、3ページについては、そういったところをくくって、こういうことなのでこうします、となっているところでございます。

○星野部会長 それでは、その後は、3番目のセクションとあわせて考えていきたいと思ひます。時間も非常に限られているんですけども、このまま続けてというよりは一度ブレイクを入れて、20分まで休憩を七、八分させていただいて、それから3部、4部と最後、議論をしていきたいと思ひます。

では、数分間ですが、あの時計で20分まで休憩をとらせてください。

（ 休 憩 ）

○星野部会長 では、再開させていただきます。

次にお話をするのは後半の部分です。時間も限られていますので、次の7ページから18ページというのは、世界の、アジアの、九州のということで、現状と課題を分析するところですので、あまり議論いただくことはないかと思ひます。少し付加していただく

ことはあるかと思いますが、さらっと考えて、最終の19ページから22ページのほうに少し時間とりたいと思いますので。

まず、セクションの3について入りたいと思います。このセクションの3は、先ほど後藤委員からもご指摘いただきましたし、福岡がどういう課題を解決してアジアのリーダー都市としてモデルを示せるのかという前提になる部分が、この世界の動き、アジアの動き、九州の動きに関わってくると思いますので、単なる事実関係ではなく、もう少し、福岡との関係を持ちながら記述をしていただいたほうがいいのかと思います。

何か7ページから18ページでご指摘いただくことはありますでしょうか。

今、ごらんいただいているときに。私は、世界、アジア、日本、九州という記述の仕方については、もう少し同じような切り口を持ってやったらどうかと思います。例えば、人口動態、GDP、転換期はどこにあったのかなど、同じような軸で整理をしたほうが見やすいのかなど。今これを見る限り、それぞれ、あるところは人口がどうなった、あるところは、というような書き方をしているので、もう少し共通項を引き出して記述をしたほうがわかりやすいのかなと感じています。

17ページ、都市圏の中で福岡の今の果たす役割というところは少しご議論もおありかと思いますが、世界の現状と課題、アジア、日本、九州、福岡都市圏、福岡市の部分で何かご指摘いただくところ、これは要素として入れるべきだというのはおありでしょうか。

○委員 一つ、非常にテクニカルな話なんですけれども、名目GDPと実質GDP、この2つをどういうふうに出していくのかです。基本的には全部実質だと思いますが。インフレの計算にはいろいろ裏があって、中国だけではなく、数字をなめたりしている国が多いので、わかりにくくなりますけど、やはり実質で。例えば、8ページの真ん中下2つもそうですし、10ページの下九州の域内総生産って、これは実質でしょう。だから、全部実質でされるとどうかなど。

このあたりはどういう議論か教えていただきたいんですけれども。

○事務局（藤本） GDPにつきましては、実質GDPの数字があるものについては実質を使っているかと思いますが、なかなか……。

○委員 いや、何らかの推計で実質は出ますよ。

○事務局（藤本） それでは、実質でそろえる方向で。

○委員 お願いします。

○星野部会長 じゃあ、全体の分析をする上で整合性を考えながら、資料もそうですし、内容についてもお考えいただくということで。

○委員 もう1点、なぜ実質かというのと、これから福岡の経済の活力を高めるためには、アジアのビジネスをやっている人たちのGDP1人当たりが増えていく、それによって単価が上がっていくんで、そういうところが実は、中国もまだ低いんですけども、伸びしろが相当あるということを確認するために必要だからです。

○安浦会長 今日の資料の3は、前回の総会で私のほうからお願いしまして、第8次基本計画の振り返りのグラフの出典でベースになっているデータがどうかというのを出示してもらったものです。これと同じことが、ここに出てくるいろいろなグラフの中で非常に細かく出典とそのベースになっているものが記載されているものもありますし、一方で、例えば12ページの都市環境に対する満足度では、「意識調査」とだけしか書いていなかったりします。これ自身どれくらい的人数が答えてやったのかが明確でなくて、どれくらい信頼度のあるものか。意識調査はアンケートをとった対象によってがらが変わります。こういうものだけを材料にいろいろな議論をするのは非常に危険だと思いますので、こちらもぜひお願いしたいと思います。

○事務局（藤本） すみません、今の12ページのは、ものすごく見にくくて申しわけないですけども、右下に小さくNを書いてはいたんですが。もう少しちゃんと見えるようにしたいと思います。

○星野部会長 2,588というのね。

○安浦会長 それからもう1点、14ページの世帯数のグラフというのは非常に重要な指標だと思うんですが、単独世帯だけ75歳以上とか65歳から74歳と切っているんですけども、75歳以上の2人世帯というものもかなり危険な世帯なわけですね。実質介護をしている、老人を抱えているものから言いますと、2人いれば大丈夫だろうというのは必ずしもそうは言えないんで、その辺も何らかの形でデータがあるのであれば、出していただければと思います。

○事務局（藤本） これは数字としては世帯主年齢しか出せないのかもしれないです。少

し当たってみます。

○星野部会長 では、データの信頼性、整合性を少し見直していただくと。

この部分については、16ページまでは、先ほどの前提として、福岡との関係でもう少し考えていくということです。それで詳細に何かご指摘ありましたら、また事務局にお寄せいただくということで。17ページ、18ページ、ここだけ行って、次、一番重要なところに行きたいと思えますけれども、17、18で何かご意見はありますか。例えば、都市圏における福岡の役割、九州の中核としての役割ということはあるんですが。あと、アジアとのネットワークも、何かこう、普通に記述されていることと何ら変わらないことで、もう少し福岡がアジアの拠点であるということ何か出せないでしょうか。

この「アジアとの充実したネットワーク」とは、どういうふうに考えられますか。

○委員 充実したといっても現状は韓国がほとんどで、充実していない典型だと思うんですね。外国人がいっぱい来ているといっても、韓国からのカメラとビール、コピー。クルーズ船が来ているといっても、3時間ぐらいで、泊まってなくて、また次に来てくれるわけではありません。だから、このあたりがとても重要です。それから、仁川と福岡空港を比べても、月とスッポンどころか、宇宙と志賀島ぐらい違うと思うんで。ここがやはりとても重要だし、アジアへ開かれたとか言えないと思うんですね。

それから、小さな話ですけども、Duty-freeみたいなのが港のほうに出るというんだけれども、あんなのDuty-freeと言うのかと。だから、ギャラリーとかロッテ免税店とかを国際入札して、リバレインに入れるとかね。魅力のあるまちをつくるかという意味でも、そういうことで今全く魅力ないと思うんですね。ここは、市長のキャッチフレーズからいっても一番重要じゃないかなと思っています。

○星野部会長 そんな中で「アジアとの充実したネットワーク」、これを売ろうとするとそれでも何か付加するような魅力とかはないですか。

○委員 例えば、文化とか歴史とか言うけれども、外国人が来て、見るところもない。そういうところの充実というと、鴻臚館の再生とかもあるんでしょうけれども、現在は、福岡タワーと、広域都市圏でいえばいいんでしょうけど、太宰府天満宮しか案内できませんから。そこらあたり、文化とか歴史とかを国際的に見せるところをと。

それと、ウォーターフロントの充実です。シンガポールのリバーウォークや北欧のベルゲン、シアトル、いろいろありますよね。そういうところの水際サイドの充実もうたわないといけないと思います。

それともう一つ、海というのはとても重要だと委員からございましたけれども、市民の人は、飛行機で荷物が入ってきていると思っているかもしれないけれども、99%の荷物は海から入っているんだ、だから博多港はとても重要だよということが、市民の皆さんとか、九州中の津々浦々の皆さんにわかるようなことをシンプルに入れるとか。

これは私も知りませんでした。アイランドシティの委員になったとき初めて先生から教えていただいたんですから。最近、市長もそれをおっしゃっているようですけれども、ほとんど知らないと思うんですね。

○星野部会長 それではこの18ページまでのところは、何かお気づきのところがありましたらまた事務局にお寄せいただくということで。

繰り返しになりますけれども、福岡をエリアでとらえたときに、もっと福岡との関係で書いていくということ、後、全体の資料の整合性、あるいは記述の整合性を十分気にしていただく必要があるということ、そして先ほど後藤委員からもお話ありましたけれども、今の切り取った事実だけではなくて、もう少し、こうなってきた変化——例えば、アジアの中でこういう成長を遂げたときの転換期はどこにあったかなど、そんなような要素もぜひ入れていただければと思います。

ありがとうございました。

それでは最後のパート、皆さんのお手元の19ページから22ページ目までに入ります。

私は今までパート1、2、3と見てきて、なかなか構成がわかりづらいなと思っていました。基本構想、基本計画、実施計画の位置づけが4ページ目にきており、その後、あまり重要とは思えないような、例えば歴史年表だとか「福岡の歩み」というものが基本計画の次のページには来ていて、その後に地理的な、エリアとしての事実関係がいろいろ並べられて、そして一番最後にこの基本計画の中で重要な、都市経営の基本的な方向性だとか目標だとか基本姿勢が入っている。この構成をもう少し見直していただいたほうがいいんじゃないかなと感じています。

つまり、最初に基本計画は何をするもので、どういう前提でこれからつくるのか、それはどういう目標を設定してどういう姿勢をもってするのかということがあって、歴史だとか事実関係というのはむしろ資料的な意味合いかと思うんで、少し構成を変えていただいたほうがいいんじゃないかと。例えば、エグゼクティブサマリーという発想がありますけれども、忙しいエグゼクティブがまず1ページですべてのものを理解して、時間があればデータってものを読み込む、そういうような構成にいただいたほうがわかりやすいんじゃないかなと思いながら読んでいました。

では、19ページから22ページの間で皆さんのほうから。

これは、少し分けていったほうがいいかもしれませんね。まず、大都市としての役割

についてのこの記述、あるいはこの都市経営の基本的方向性について、皆さんのほうからご意見があればぜひ出していただきたいと思います。いかがでしょうか。

お願いいたします。

○委員 質問ですけれども、「大都市としての福岡市の役割」ですが、ちょっと意味がわかりにくくて教えていただきたいんです。

まず、「一体的に発展している福岡市とその周辺地域には」とあるんですけれども、この「周辺地域」は都市圏のことを言っているのか、それ以外も含んでいるのかという確認でございます。

二つ目は、「九州に住むすべての人々の生活の質をさらに高めていく役割や」とあるんですけれども、これは具体的にどういうイメージになるのでしょうか。

この二つを教えていただきたいと思います。以上です。

○事務局（藤本） ご質問の件ですが、一つ目の「一体的な地域」について、「福岡市とその周辺地域」というのは、想定は福岡都市圏ということですが、ただ、場合によっては他のところも含むということで、例えば物流など考えたときに当然鳥栖市との関係があつたりと、経済の分野や範囲によって例えば北九州も含めてという場合もあるということで、ここは現在、少しぼやかした言い方にして書かせていただいています。

もう1点の「すべての人々の生活の質を高める」というのは、イメージとしては文化機能を充実することで、本来、東京や大阪に行かなければ見られないものが福岡まで来れば見られる、手に入らなかったものが手に入れられる、人に会える、そういう意味で、九州全体にない生活の質を高める機能を何らかの形で福岡が持つというようなイメージで書かせていただいています。

○星野部会長 前回の基本計画を見ると福北連携というのが書かれているんですが、今回はその記述はないですね。ないですけれども、むしろ今、市長が鹿児島市や熊本市との3都市の連携、あるいは北九州含めて4都市の連携とされているので、福岡市の役割としては、そういうことも入れていただいたほうがいいんじゃないかなとは思いますがね。

あと一つ、4つ目の丸のところで、「また東京と同時被災しにくいという立地特性」というのは生々しい表現ですし、もう少し、「大規模災害のリスクの分散」などという言葉を使ったほうがいいんじゃないかなと私は読んでいました。

何か、この大都市の役割、都市経営の基本的方向性についてございませんか。

この大都市としての福岡市の役割というのは、いろいろな選択肢がある中で福岡の都市機能の魅力ということになってくると思うんですけれども、何かこれもう少し。

委員、例えば、福岡を中心に経営するというにも関係してくると思うんですけども、何かご意見いかがでしょうか。

○委員 私どもはゲームソフトを開発している会社ですけども、今、情報産業技術の発達で世界が地域を関係なく情報がやりとりできて、まさにグローバルな世界になったとよく言われているんですけども、私たちゲーム産業も同じで、パソコンと電気と人があれば、どこでも開発ができます。インタラクティブなものやIT産業のものというのは本当にどこでも仕事ができると言われていまして、福岡にはゲーム会社、ゲーム産業がたくさん集積しているんですけども、私たちが福岡にいる理由というのは、実は本当のところあまりないんですね。たくさんの海外の行政の方から、福岡ではなく、カナダのバンクーバーやモントリオール、あと北アイルランドのほうに会社を移さないか、資本を投資してくれないかと言われていました。

これから10年後、こういった産業、IT技術が、多分これからの文化になります。今、ゲーム産業というのは新しい技術と言われてはいますが、25年、30年たったときに、映画やその他の娯楽産業のように文化になるんだと。これらを定着させていくために福岡市でなければならぬ、福岡市でないとできない、そういう都市にできないかなと私はずっと考えています。そしてこれが福岡ならではの、世界で見て、世界中のクリエイターが福岡に根をおろして福岡でしかできないものをつくれるようになればいいなと考えています。そういった企業を集めて新しい文化として根づかせるために、福岡にどういった機能を持たせたらいいのか、どういったものがあればいいのか。まともでないんですけども、その文言を何か一つ入れられないかなということを考えています。

○星野部会長 ありがとうございます。ぜひ次回の目標の中で、そういう実際に福岡に本社機能を誘致できるような魅力、おそらく、現状としてこういう問題があるから、だからこういうやり方で改善できるんじゃないかというのを、ご提案いただきたいと思いません。ありがとうございます。

ほかに、大都市としての福岡の役割、九州の中における福岡だとか、こういうことが記述されていますけれども、これでよろしいですか。

○安浦会長 ここで一つ抜けているのが、部会長も最初に言われました教育機関、特に高等教育機関の集積の話です。日本全体の大学でいったら3%ぐらいの学生が福岡にいるわけですし、専門学校では5%近い人が福岡で学んでいるというこの事実は、今後の都市の活力に非常に影響します。

それから、統計を見ていたら留学生約3,000人と出ていて、そのうち2,000人は九州大

学で、そのうちの1,000人は中国です、韓国が二、三百人ということで、やはり中国・韓国との結びつきは日本の国立大学の中でも圧倒的です。その辺をうまく表現して、逆にその力をいかに生かすかというのが都市の成長戦略の大きなきっかけをつくるんじゃないかと思います。

○星野部会長 ありがとうございます。教育の拠点としての福岡、これは非常に重要だと思いますし、今、会長の言われた大学だけがどうしてもクローズアップされていますけれども、それ以上に我々が考えなければならないのは専門学校の集積です。天神が日本で一番の美容室の集積だとすると、おそらくそれはここにある美容学校と切り離せないでしょう。先ほど委員が言われた福岡の魅力、これから例えばコンテンツ産業について高めていこうと思ったら、専門学校の役割とは切っても切れないことだと思います。こういったことは都市の成長力としていろいろなところで入れていく必要がありますね。ありがとうございます。

○委員 根本的な話なんですが、大都市という言葉がさっきからひっかかってはいるんです。おそらくアジア全体から見たらだれも福岡を大都市とは思っていないと思うんですよ。逆にトートロジー (Tautology) になってしまうんですけれども、この「大都市としての福岡市の役割」の文言の中で、むしろ大都市を定義しているようなところもあるのかなと。おそらく事務局も大変苦しんでらっしゃるのかなという気はするんですけれども、あえてお聞きするんですが、ここで大都市としての役割を掲げた意図があれば教えていただきたいなと思います。

それから、まだちょっとわかりにくい気がするんですよ。例えば、最後の丸のところに「そのような地域になることで」とあるんですが、どのような地域になるのかなと。まだちょっとはっきりしてない気がするんですね。これが、前後の文脈の中での位置づけがはっきりしてないのにも原因があるのかなという気がいたしました。

まず、13ページから16ページも関係するんですけれども、ここで基本的指標と言って、人口と経済しか掲げてないんですよ。これが後にどうつながってくるのかなと思ってずっと見ていたんですけれども、どこにもつながってきている感じがしません。

人と経済——経済というのもGDPとかの指標だけでいいのかなというのもあるんですけれども。もしその後で都市経営という話をするのであれば、じゃあ税収はどのように伸びていくのかという予測も当然必要だと思うんですね。ほんとうにGDPだけで見ていいのか。20ページにつながってくるような指標はないですよ。

あと、じゃあ19ページの「大都市としての福岡市の役割」をあらわすような指標が何かでてきているのかなと思うと、そうでもないし。前後の文脈の中で、19ページが唐突

に出てきている感じがします。むしろ、あえて出された意図をお聞きしてから議論した方がいいのかなという気がしました。

○事務局（藤本） 19ページの「大都市としての福岡市の役割」というところですが、今、全国的に大都市制度のことも含めて、都道府県という広域自治体でもなく、小規模な基礎自治体でもない、いわゆる大都市がどういう役割を担うのかが議論されているという中で、そういう意味で大都市制度ということで、国で扱っている大都市という言葉そのままとって、「大都市としての福岡市の役割」と、ここはあえてその大都市についての項目を一つ起こしているというところでございます。

そういった関係上、先生のおっしゃったとおり、前の数字との整理がまだ十分できていない、議論がまだ行き渡ってないかところがあるとは思いますが、そもそも大都市制度と言いましても、制度論を云々というよりは、そもそも大都市に求められている役割が変わってきているので、今そういった議論が出ているんだろうと。ここは大都市制度を議論する場ではありませんので、いわゆる大都市がどういった役割になるのかというところをここで議論いただけたらということで書かせていただいています。

○委員 いや、今言われた国の制度の大都市制度とは、何のことをおっしゃっているんですかね。

○事務局（藤本） 大阪からの話の中で、200万ぐらいの規模であればどういったことかという、その規模の話はすみません、はっきりどことはしていないんですが、もともと政令市の市長会では、政令市で特別自治市ということで考えていました。例えば、政令市とその周辺といったイメージです。ただ、政令市についても、サイズがいろいろありますので、国においてもそのサイズはどこまでということではっきりしているわけではないんですが、政令市なり、そういったサイズの都市かなと考えているところです。

○委員 まあ言葉はいつでもいいんですけども。国の大都市っていう制度というのは、私の知る限りあまり聞いたことないんですけどね。おそらくそれは自治体の協議会レベルで言われている話じゃないかと思います。まあ、その言葉の話は一回整理していただくとして。

私はやはり、福岡をあえて、他の都市圏、九州、アジアという中に入らないカテゴリーとしてここを出しているのかなと思うんですけども、そこから漏れたものをここですべて拾い出すような形で入れているのかという認識でした。もしそうだとしたら、福岡を外から見たとき、いろいろなビジネスが起きてくると。今日も新しいビジネスを興

した経営者の方々が委員の中にもいらしてますけれども、そういうものがどんどん沸き起こってくるのが福岡の魅力ではないのかと僕は思うんですね。これは雇用にもつながっていく話ですし、経済にもつながっていく話で、そこをもっときちっと出していく必要があるし、出していくとしたら、この 19 ページの役割かなという気がいたしました。

○星野部会長 ありがとうございます。この19ページは、17ページの「福岡市の広域的な役割」の延長線上で書いて、「都市圏における福岡」などそれぞれの表題をつけたところで何となく「大都市としての福岡市の役割」というタイトルをつけられたのかと思うんですが、あまりこれは「大都市として」というのは必要ないですね。福岡市の役割、もっと広域的な意味で、福岡ってどういう役割を担っていくのかをもう少し中身を入れていただいて、これが後の基本設計につながってくる内容にさせていただく必要がありますね。ありがとうございました。

○委員 あと、ちょっと気になったのが、前のページになってしまうんですけども、基本指標のところです。人と経済が出ているんですが、例えば先ほど市議会でも議決されたという話につながるんですが、エネルギーとか、むこう10年間、大きな目標として掲げなければならないものを、もう少しここで出していただく必要があるのかなと思うんですけども。基本指標と言うのであればです。ほんとうにこの二つだけでいいのかなという気がいたしました。

そして、そのことが、19ページのところにも出てこないといけないのかなという気がするんです。もし何かエネルギーでモデル都市となるのであれば、ちゃんとここにも打ち出しておく必要があるのかなと。それが大都市の役割でもあるのかなという気がいたしました。

○星野部会長 ありがとうございます。

20 ページは都市経営の基本的方向性として、生活の質を高めることと都市の成長を図るという二つの部会に分け、それぞれの役割についてここに書かれているわけですが、この枠組み——これはもうこの2つに部会が設定されていますし、この中で生活の質を高めることが人を呼び込むことであって、人を呼び込むことがこの都市の成長としてさらに質を高めていくという、こういった流れがこの中で示されているわけです。方向性としてはこれで問題ないと思うんですけども、これはよろしいでしょうか。

○委員 来週、私欠席なので、一つおもしろい動きというか、この10年間で何が起きるかということの一つだけ。

これは生活の質の部会の方にどなたか伝言していただきたいんですが、日本の名立たる都市それぞれの財政が、今から破綻の方向に向かっている。なぜかというと、高齢者の生活習慣病で医療費が大変なことになるからです。それで新潟県の上越市等々、先進的な都市は、生活習慣病の人を減らしていますよ。どうやって減らしているかというと、健康診断を皆さんしますから、その後のフォローアップのために行政で新たに人を雇用しています。それで、1人で50人——先生が生徒を見るようにしてライフスタイルを変えるとというふうなこともやっていたりします。

ですから、生活の質を高めるという言葉だけはあるんですけども、市の行政的にはぜひ視察に行かれて——もう知っているかもしれませんが。とにかく、食べて寝るだけという人がすごく増えるわけですよ。祭りをやるとかスポーツとか、運動量を増やしないと、シニアの人が市の財政を引きずりおろしますから。逆に言えば、シニアの方々の活力をどういうふうに取り込んでいくのかというのが実は、経済的にはコストセンターとしての一番大きなファクターじゃないかと思います。

ちょっと別の部会の話なんですけど。

○委員 最初のほうで、委員かな、財政の話は多分すごく大事だということもあったし、そのときに事務局から、行政も財政のことは別途考えていますとさらっとあったんですけども、そこが見えないんで、この都市経営の話が骨しかないというか、非常に緩やかに見えます。

委員がおっしゃったようにベースのデータも多分必要だと思うんですけども、根本的な考え方をこの段階で整理しておかないと、次の各論に議論が行く手前で、またあれもやるべき、これもやるべきと、すごく総花になる怖さを感じているので、ここは詰めてもう一回議論すべきじゃないかと正直思います。

というのは、まず行財政運営のところ、入りと出とどちらをどう御するのが、予測に基づいてどうなっているのかが実はよくわからなくて、ちょっと経常費的経費の見直しなどをしたら新たな財源が出てくるので、それで頑張りますと読めてしまって、節約はするけれど、入りを増やす気があるのかなのか、実はよくわからない。成長の目標値を、じゃあ雇用という議論はさっき出ていましたけれども、税金という観点でどうとらえているのかも実はよくわからないし、税金を市の基幹の税源のどこで求めているのかと。住民市民税を期待しているのか、法人系の話を考えているのか、固都税を考えているのか、どこの部分をどう増やそうとしてるか、してないかというのが見えないなとまず思っています。

その上で、20ページの下のほうの（2）です。産学官民の連携という耳ざわりのよい当たり前のことが書いてあるんですが、じゃあ行政経営の上の都市経営のときに行政がどういう役割を果たしていくのかです。基本的には、例えば、民間企業が経済成長の主たるプレイヤーであるので、それに対して行政は政策的に支援をしていきますという方向なのか、いやいや公共事業、公共サービスをどんどんやっていくことで牽引していきますなのか、そこの骨太の思想が見えません。もう一度出口先生の話に戻ると、データに基づいて、そこをどう考えているのかをと。それが、ここの基本計画で言う話なのか、それとも横でやっているから参考までに委員の皆さん知っておいてくださいという話にするのかをちょっと明確にしていきたいと思います。

○星野部会長 おそらく22ページの行政運営の基本姿勢っていうのは、これ1ページですべて押さえているからという前提で、ほかの部分についてはあまり触れられてないのかなと思うんですね。ただ、じゃあ22ページのこれで十分かという、それこそ先ほど藤野委員からもご指摘いただきましたけれども、例えば、低減と同時に効率化ということも十分必要なんですけど、それが十分この中で網羅されているとは言えないし、先ほど後藤委員の入りと出、この両方もそうでもないし。じゃあ都市経営に向けて福岡市はどうされるのかという部分をもう少し明確にさせていただいたほうがよさそうですね。

他の項目の中に入れるかどうかは、僕は別だと思うんですよ。ただ、ここは姿勢の問題として重要だと思います。

ほかにご指摘いかがでしょう。委員お願いいたします。

○委員 民間であれば事業計画を作成・策定するときにはやりたい事業とその資金・お金は常にリンクしています。お金の裏付けのない事業計画というのはあり得ません。

皆さん同じ意見だと思います。財政の話はどうなるのかと思っていると思いますが、財政の話からいったのであれば夢の話も出来ないし、総合計画もなりたない。本当はどこまで突っ込むのかという議論が先にあるべきかもしれませんね。福岡市の過去2回の総合計画をみても財政計画をどうするというのはなく、あくまでもありたい姿という形で策定されているので、絵に描いた餅的になっても仕方ないかなと思っています。

私はただ22ページに財政に関する文言がはいっているんで、これでいいかと思い、言うのをやめていました。「これをいっちゃおしまいよ」と。

○星野部会長 光山さん、今の委員の質問についていかがでしょうか。

○事務局（光山） 委員の皆さまがご心配をされている、財政の話ですね。確かに企業経

営とかされる上では、まずお金の話をしっかり押さえた上でどうやっていくかというところがありますが、我々の基本的な今の認識としては、4年間の実施計画で何をするのか、何を見直していくのか、その結果として、もともとの財政運営をどうしていくか。その具体的話を4年間の計画の中で、しっかりかいていきたいと思っております。

ただ、その財政運営をどうしていくかということも、目指すべき都市像とか、あるべき方向性が前段としてないと、何のために財政の健全化をしているのか、何のために財政の見直しをするのかということころは、なかなか手法と目的がぐちゃぐちゃになるところもありまして。我々の整理としては、この基本構想と基本計画でまちづくりの大きな方向性——福岡としてこういう方向を目指して頑張っていくべきだろうということころをうたっていた上で、それをやっていくための財政運営をどうするんだ、何をやっていくんだ、というようなところの整理を、実施計画と行財政改革プランという4年間の計画の中で整理をさせていただければと考えている次第でございます。

それと、補足でございますけれども、行財政に関するプランにつきましては、実は別途、外部委員の皆様による会議が同時並行で行われております。そちらでも、福岡の行財政運営をどうしていくのかをしっかりとご議論をいただいております。ほんとうは前段から整理をできればいいんですけども、基本構想、基本計画、それから何をやるかの実施計画、それと対をなす行財政運営の指針の行財政改革プラン、これを今年1年間でつくっていかうと思っておりますので、いただいたご議論は相互のプランの中に反映はできていくんだらうとは思っておる次第でございます。

私からの説明は以上です。

○星野部会長 わかりました。それではこの基本計画を……。はい、どうぞ。

○委員 たびたびすみません、やはり富を創造するという事柄の議論と、富を分配するという事柄の議論と、この二つが入っているので、今、実際に起業されたり新しい事業をされている方々がいらっしゃって、パイを広げるとというのが成長ですから、そういうところがあれば、それはその後分配できるんだ、とにかくパイを広げるために考えていくということと言うと、二つの取り組みがまざっているんですね。このまざっているところについての視点は少しどこかに入れ込んでおかないと、分配だけやっているとはですね。新しいものをつくることも結構今議論してきたと思うんで、そこは建設的なところじゃないかと思っているんですが。

○星野部会長 ありがとうございます。この基本計画を実施していく上での財政基盤については、ほかの審議会で同時並行で議論されているにしても、要素としてはこの中にと。

基本計画ができる上では盛り込まれるような形になるのでしょうか。それとも、それは全く別で、この中にはあられないんですか。

○事務局（光山） 行財政改革に関する有識者会議というものでご意見を伺いながら行財政改革プランをつくっていきます。基本的なスケジュールにつきましても、ほぼ同じスケジュールになっておりますので、いただいたご意見を相互に整理をさせていただいて反映していくことは可能だと思っております。

○星野部会長 わかりました。ぜひお願いいたします。

21ページに掲げられている八つの目標のうち、最初の目標1から4がもう一つの部会で審議されていることで、私たちは目標の5から8までを扱うことになるんですけれども、この目標がそれぞれ適切であるかどうか。こういった枠組みについては、次回、目標について審議をしていただきますので、この目標設定4つが適切であるかどうかについてもその際にご議論いただければと思います。

そう考えたときに、今、大都市としての福岡市の役割から基本的な方向性、それから、基本計画の目標、基本姿勢とききましたけれども、この中であと最後につけ加えることがあればいただいて、なければ、後お気づきになったところは事務局のほうにお送りいただきたいと思っておりますけれども、何かいかがでしょうか。

○委員 先ほど委員の発言を聞いて、僕は最初に幼い発言をしたんだなと思ったんで、なかなか後がというのがありました。すみません、追加の意見でも何でもないんですけれども、前回、欠席させていただいて、今回初めてだったので、今後いろいろな言っていきたいと思えます。本職の農業分野のということと、あと、若手の起業家ということで呼ばれているのかなと思えますので、そういった発言もあるかと思えますけれども、またよろしくお願ひします。

○星野部会長 ありがとうございます。この委員の方々は、非常に多彩な分野でご活躍になられていて、違う視点で見ていただくということで来ていただいておりますので、委員のその起業家としての、そして農業の視点というのは、ご自身のご経験、知識、知見からご発言いただければ結構ですので、ぜひ次回以降もお願いいたします。

よろしいでしょうか。

○委員 すみません、さっきの事務局のご説明で大体はわかったつもりではいるんですけれども、この後の議論のよりどころが非常にぶれる危惧を持っていますので、ここは部

会長、副部会長にけん引していただきたいんです。要は、財政の枠組みが見えないので、目標1個ずつつぶしていったり、エリア別空間を全部つぶしていくときに、あれもやりたい、これもやりたいと、どこまでも拡散して、全く現実味のないアウトプットになることを非常に危惧します。それに対して、どこかのタイミングで、ほかでやられている行財政プランの検討材料とかをうまくつなげるよう差し込んでいただくように、ぜひお願いをしたいと思います。みんながやりたいことを、やるべきだと思うことを言うだけでいいのかと、進め方について危惧を持ちます。

○事務局（光山） ありがとうございます。22ページの行政運営の基本姿勢のところ、持続可能な行財政運営で、選択と集中ということがここに書かれているわけですがけれども、実際我々は財源のほうを考えるとなく、基本計画であれもこれもと云ったら、この選択と集中と全く逆行することになりますし、具体的な財政基盤があって初めて何かができるということになりますので、そのバランスについてはこちらでも確認していきます。

委員、ご指摘ありがとうございました。

○星野部会長 よろしいでしょうか。今日以降も、これから非常に限られた時間で、なかなかこの中でご意見いただけない部分もあるかと思えますので、今日十分にご提案いただけなかった部分、今日持ち帰られて何かお気づきになられた部分については、事務局のほうにお送りいただいて、それはきっちり次に反映させていただきますので、そのように進めていきたいと思えます。

それでは、藤本さんのほうからお話をいいですか。

次回以降の日程について

○事務局（藤本） すみません、最後に事務連絡ですが、次回は、17日となっておりますので、よろしくお願いいたします。

今、部会長のほうからもお話ありましたが、先日、質問のある方ということで、様子をメールなり郵便なりで送らせていただいたものがありますので、今日ちょっと時間がなくて言えなかったご意見などあれば、そちらを使ってメールなりファクスなりで送っていただければ、次回の冒頭でご紹介して、質問で済む分についてはその場から事務局でご説明させていただくような形にさせていただきたいと思えますので、よろしくお願いいたします。

○星野部会長 それでは、お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。
た。

次回以降、同じような進め方で、いろいろな方の意見を反映させながらいい計画にしていきたいと思いますので、ご協力をお願いします。どうもお疲れさまでした。

閉 会